

桐原 純男議員



Q 牧野道路復旧・野焼きの今後は

A 早期復旧へ向け国・県と協議を進める

桐原議員 牧野道路被害は大雨の影響で、地震後より大幅に悪化している。放置すれば大きな負担を強いられる。白水地区は、牧野の中までの村道は建設課、牧野道は農政課、観光面では企画観光課も関係する。どの課が対応するのか、漏れのないように復旧できるのか。

野焼きを中止すれば、数年後は、雑木が生い茂り、景観が悪くなるばかりでなく、再開できない恐れもある。野焼きの再開は、南阿蘇観光再生において喫緊の課題である。今のままでは、高齢化等で事故も起きており、野焼きの継続は不可能だ。国や県主導で恒久的な防火帯、道路などを作り危険のない環境を作る必要がある。

環境の保全・観光・教育、さらに防災面で重要な行事である。今後過重労働の改善と安全確保のため、どのような取り組みが必要か、国や県、各関係機関等と協議を行いたい。

農政課長 牧道の被害については、農政課が農災事業で対応する。野焼きは、国立公園内ということや保安林等で非常に縛りがある。

村長 牧野道路は村道との関連もある。建設課と連携を取りながら、5月頃までに工事を発注し早期の復旧に努めたい。野焼きは、



被害を受けた牧野道路

桐原議員 地震の被害は村西部の方が甚大で、復旧・復興は優先的に進めなければならぬ。しかし、村東部の整備も必要で、村全体のバランスのとれた発展が大事だ。前年度設計・計画等された道路の整備や観

Q 村整備計画の進め方は

A 復興むらづくり計画に沿って進める

その中で輪地切り、防火帯づくり、恒久的な対策が取れるように国・県と協議を進めていきたい。また山都町では自衛隊と一緒に組んで、広大な土地の野焼きが実施されている。

光面では、白川水源の整備等あったはずだ。村長が変わったことで計画が大幅に見直されるのではないかと不安視する声もあるが、復興むらづくり計画に沿って進めていくのか。

村長 震災による復旧・復興事業を最優先に取り組んでいく。28年度に計画した村道改良事業は、計画した10路線のうち5路線を発注し工事を行っている。残る5路線は予定を繰り越して29年度に着手する。

整備計画については、工事費を今定例会に予算計上している。さらに観光事業の実施については、地震の復旧・復興の進捗状況と併せて適宜着手する。

復興むらづくり計画に沿って、バランスのとれた事業を展開し、魅力ある南阿蘇村の復興・復興の実現を図っていききたい。

特に、白川水源周辺



計画通り進める環境整備